学位論文抄録

地域住民のライフスタイルの評価とそれに関与する生活環境因子の相互関連性

(Interrelationship between lifestyles and lifestyle-related factors in peoples living in local district of Japan)

張　　詩晨

熊本大学大学院医学教育部博士課程環境社会医学専攻環境保健医学

指導教員

上田　厚　　前教授
熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻環境保健医学

加藤　貴彦　　教授
熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻公衆衛生・医療科学

学位論文抄録

[目的] 都市近郊地域（熊本県植木町）住民のライフスタイルの様態とそれを規定する地域生活・環境・健康・福祉関連因子との相互関連性を明らかにする。

[方法] ライフスタイルを評価するツールとして健康増進ライフスタイルプロフィール調査表 (HPLP-II) と、それを規定する因子としてグループワークによって抽出された地域生活・環境因子 18 項目で構成される質問調査表を開発した。それを用いて、植木町男女（18 歳～64 歳）3141 名を対象に、自記式郵送法による住民調査を実施した。得られたデータをスコア化し、ノンパラメトリックな統計手法を用いて、植木町住民のライフスタイルの様態を解析し、さらにライフスタイルとそれを規定する地域生活・環境因子とその相互関連性を解析するために重回帰解析を行った。

[結果と考察] 1270 名（応答率　40.4%）の回答者から記載の適正な 1176 名を解析対象者とした。因子分析によれば、地域生活・環境因子は、「社会的支援」、「健康認識」、「保健・医療・福祉サービス環境」、「健康行動」、「主観的健康感」の 5 因子であった。

HPLP-II のスコアは、(1)女性は男性に比して、「HPLP-II 総合」、「健康の意識」、「人間関係」、「栄養」、「ストレス管理」が有意に高値で、ライフスタイルは、女性は男性に比して良好であることが示された。 (2)高年層は若年層に比して、女性では、「HPLPⅡ総合」、「身体活動」、「栄養」、「ストレス管理」が有意に高値、男性では、「HPLPⅡ総合」、「健康意識」が有意に高値で、ライフスタイルは、高年層が若年層に比して良好であることが示された。(3) HPLP-II と主観的健康感には有意な正の相関が示された。(4)農業従事者は正規雇用者に比して、「HPLP-II 総合」に差異はないが、「精神的成長」が有意に高値、「身体活動」が有意に低値であった。(5)「HPLP-II 総合」を規定する因子は、男女ともに、「健康認識」が最も強く、ついで「保健・医療・福祉サービス環境」「社会的支援」、「健康行動」であった。しかしながら、それぞれの因子の重みは、性別・年齢別に異なった傾向が見られた。(6)「主観的健康感」を規定する因子は、男女ともに「健康認識」が最も強く、ついで、男子は、「社会参加」、「保健・医療・福祉サービス環境」、女子は「保健・医療・福祉サービス環境」、「社会参加」の順であった。(7)これらの結果から、地域生活・環境因子がライフスタイルの良否を規定し、それが主観的健康感を規定しているベクトルが示唆された。

[結論] ライフスタイルと地域生活・環境因子を評価する質調査表を開発し、植木町を対象に住民調査を実施した。その結果、ライフスタイルは、女性が男性に比し、高年層が若年層に比して良好であること、ライフスタイルと主観的健康感のスコアには有意な相関関係が認められること、ライフスタイルを規定する地域生活・環境因子は、「健康認識」が最も強く、ついで「保健・医療・福祉サービス環境」、「社会的支援」であるが、それぞれの因子の重みは、性、年齢によって異なっていることが明らかにされた。